



市民生き生き、大きな未来！笑顔と希望のあふれる生駒！

生駒市議会議員

よしなみ のぶはる (吉波伸治)

市民の皆様へのお便り (2015年3月)

発行責任者：吉波伸治 〒630-0121 生駒市北大和3-2-7 TEL&FAX：0743-84-4355

市民の皆様、こんにちは。生駒市議会議員の吉波です。平素はご支援賜り、誠にありがとうございます。5年前の2010(H22)年1月の市議会議員補欠選挙で当選させていただいてから、生駒市を「関西一魅力的な住宅都市」にすべく努めてまいりました。その際、常に頭の中にあっただのは、**生駒が持つ魅力とは何か**、それを明確にすることで生駒に生きることの誇りを高めたい、それを全国に発信することで生駒市の知名度が高まるのではという想いでした。その想いを実現するため、生駒の魅力探しをおこないました。そして、ものごとを多くの人々にわかりやすく理解していただくには、それを検定問題にするという手法があることに思い至り、今回、生駒の魅力を検定問題にした「**生駒検定<全国版> ～問題と解答・解説～**」をまとめました。生駒市のことをあまりお知りにならない方に生駒市のよさを説明するときや外国の地で生駒市とはこのような都市・まちであると説明するときにも役立つようにということ念頭に置いて作成いたしました(そのため、検定問題にしては長くなっている問題もございます)。是非ご一読いただき、そしてお手元に保存していただいでご利用いただければ幸いです。

生駒検定<全国版>

問題の順番：問題文の字数が少ないもの順になっています。長文のものは後の方になっています。

<問1> 国際都市 生駒

生駒市には、2014(H26)年4月1日現在で何カ国の外国籍の人々が居住しているのでしょうか。次から選んでください。

約15カ国 約30カ国 約45カ国 約60カ国

<問2> 謎多き山 生駒山

生駒山の最高峰から真西にある**古代日本の宮殿**はどこですか。次から選んでください。

藤原宮ふじわらきゅう 難波宮なにわのみや
長岡宮ながおかきゅう 平城宮へいじょうきゅう

<問3> 芸術の香りあふれるまち 生駒

2010(H22)年より毎年、生駒市において開催されている国際的な芸術的催しは何でしょうか。次から選んでください。

国際演劇祭 国際映画祭 国際音楽祭 国際美術展

<問4> 生駒に息づく野生動物

「生駒市自然環境調査報告(H19・20年度)」に生駒山や矢田丘陵での確認種として記され、高山第2工区でも目撃されている動物を次から選んでください。

ムササビ ニホンリス オオワシ ニホンジカ

<問5> 不思議な「旅する蝶」が立ち寄る生駒

毎年、秋には本州の高原地域から九州や沖縄・八重山諸島まで、春から初夏にかけては南から北上して本州の高原地域まで、片道何百kmも飛んでいき、途中、生駒山の山中や山麓に立ち寄り休息する美しく不思議な「旅する蝶」といわれる蝶の名前は何か。

<問6> 虹色に輝く「幻の菓子」

生駒市にある小さな町工場で作られる、虹色に輝くカラフルで透明感のある、人気があるものの入手困難なため「幻の菓子」と呼ばれているものは何ですか。次から選んでください。

レインボーチョコ レインボークッキー
レインボーラムネ レインボーキャンデー

<問7> 「男はつらいよ」生駒の巻

山田洋次監督の人気映画「男はつらいよ」第27作の「浪花の恋の寅次郎」では、**宝山寺**が舞台の一つとなっており、そこで寅さんがデートします。そのデートの相手である浜田ふみを演じた女優は誰でしょう。次から選んで下さい。

大原麗子 松坂慶子 吉永小百合 浅丘ルリ子

<問8> チャレンジする都市 生駒

国は、目指す社会の姿を具体的に分かりやすく示すために、高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする都市を**モデル都市**として選定し、その実現を支援しています。生駒市が選ばれたことが14(H26)年3月に発表されたのは何モデル都市でしょうか。次から選んでください。

環境モデル都市 I Tモデル都市
健康モデル都市 食と農のモデル都市

<問9> 生駒にひっそり暮らす「氷河時代の生き証人」

日本古来の「秋の七草」の1つでありながら、いまや「絶滅危惧種」となっているこの植物は、「生駒市自然環境調査報告(H19・20年度)」に高山町や北・南田原町での確認種として記され、また、「学研高山第2工区宅地造成事業」の環境影響評価書(H12年8月)に「事業予定地内で確認された貴重な植物種(絶滅危惧種)」として記されています。この「氷河時代の生き証人」と呼ばれる植物の名前は何か。

<問10> 歴史が息吹く生駒の古道

下記の文の〇〇には、ある人物名が入ります。室町中期の高僧で、頓智トンチで有名なこの人物の名前を教えてください。

檀家制度が確立する江戸時代に入るまで、交通手段も通信網も限られていたにもかかわらず、お坊さんは広範囲をマメに歩き、信者の家を訪ねたりお葬式をあげたりしていた。そういう宗教者の存在ほど、民衆にとって心強いものはなかった。

この人物も晩年、南山城の酬恩寺(通称〇〇寺)を根拠地に、京都東山や摂津、和泉塚などの間を頻りに往来した。

大和の国の北端に位置する高山は、河内・山城の両国との三国境にあり、古来、交通の要地だった。この人物は、旅の往還に高山の交通の要衝である中村の里を通る街道を月1回は通ったという。そのため、この街道は「〇〇さんの**通い路**かよいじ」と呼ばれている。

<問11> 生駒の自然が生んだ世界に誇れる伝統工芸

下記の文は、「高山の**茶釜**(茶筌)ちゃせん作りの由来」と「茶釜のかたちの所以ゆえん」について述べたものです。(1)～(4)に入る人物は誰でしょう。次の人物名からそれぞれ選んでください。なお、太字部分は「茶釜のかたちの所以」について述べた部分です。

村田珠光じゅこう 宗砌そうせつ 後土御門ごつちみかど 宗祇そうぎ

高山町は、古くは鷹山郷たかやまきょう／たかやまごうと呼ばれた。室町時代中期、連歌の大成者である（ 1 ）をも門弟とする連歌師の（ 2 ）が、親交のあった茶道の祖である（ 3 ）のために茶筌を考案した。（ 2 ）は高山城主頼栄よりさかの次男で俗名を高山時重ときしげという。高山は今でも鷹が多い。万葉人の狩猟の地でもあった。**鷹が空を飛び風を切る。その時、風切羽**かざきりばね・かざきりば（**鳥の翼の後方に整列している一連の羽根**）の**しなやかさが風の強さをやわらげる。その様を竹に写したのが茶筌**。（ 2 ）の試みは見事に成功した。（ 4 ）天皇に献上されたそれは、**羽毛のように優雅で穂先はしなやかで柔らかい**と驚嘆され、『高穂』の銘を賜った。帝の銘名にちなんで土地の支配者が鷹山を高山と改めた。これが高山の里に茶筌作りが起こったいわれである。今日でも作業はすべて手作業である。（ 2 ）以来、五〇〇年その工程は基本的には何ら変わらず受け継がれている。

<問12> **歴史を見つめてきた暗峠**くらがりとうげ

暗越奈良街道くらがりごえならかいどうは、難波なにわと大和を結ぶ古代の街道で、その最高所にある暗峠（標高 455m）は古代からの交通の要衝です。

①1694年10月27日（元禄7年9月9日）に、奈良から大坂へ向かう途中この峠を通り、「**菊の香に くらがり登る 節句哉**かな」という重陽ちょうようの節句（下に注）にちなんだ句を詠んだ俳人は誰でしょう。次から選んでください。

 	 	 	 	 	
 	 	小林一茶	与謝野蕪村	松尾芭蕉	井原西鶴
 	 	 	 	 	

（注）重陽の節句は、五節句の一つ。節句は季節の節目ふしめとなる日。五節句とは、1月7日・3月3日・5月5日・7月7日・9月9日で、それぞれ、七草の節句・桃の節句・菖蒲の節句・七夕の節句・菊の節句という。なお、漢名ではそれぞれ、人日じんじ・上巳じょうし・端午たんご・七夕しちせき・重陽ちょうようという。

②①の人物がこの峠を通ったときより約940年前の753年（天平勝宝5年）に、難波津なにわつ（古代大阪湾の港）から平城京に向かう途中この峠を越え、のち、**唐招提寺**を創建した中国渡来の人物の名前を答えてください。

③①の人物がこの峠を通ったときより約110年前の1585年(天正13年)に、ある人物が大和・紀伊・和泉の3国を治める110万石の郡山城主となり、この峠を越えて郡山城と大坂城を往来して**豊臣政権**を支えました。しかし、1591年（天正19年）に郡山城内で亡くなり、その早すぎる死により最強の支えと英知を失った豊臣政権は、朝鮮出兵を最大とする愚策によって崩壊していきました。もし、もう少し長命を保っていたならば豊臣政権の崩壊はなく、家康に豊臣家を滅ぼされることも無かったと言われている、この人物の名前を答えてください。

④①の人物がこの峠を通ったときより約10年後の1705年（宝永2年）に、**お蔭参り**おかげまいりと呼ばれるものが爆発的に流行しました。このとき、西方から来た一日七万人もの人々が、暗越奈良街道を歩き、途中で暗峠を越えて奈良に至り、更にある場所をめざしました。この場所の名前を答えてください。

<問13> **生駒を愛し今も生駒に眠る偉人**

下記の文は、白鳳～奈良時代に活躍した生駒ゆかりの人物について述べたものです。その人物名をお答えください。

彼の偉大な業績は、何といっても、仏教を民衆のものにしたことである。仏教の根本の教えは、「慈じ(楽しみ・喜びを与えること)悲ひ(苦しみ・悲しみを取ること)の实践（悲しみ・苦しみと楽しみ・喜びの共有）による縁起えんぎの法（すべてのものは互いに支え合っているという真理）の自覚による苦悩の超克」である。それまでの仏寺といえは、貴族や天皇家の私物であって、そのあり方自体が仏教の教えに反するものであった。仏教伝来ののち、まず蘇我氏が仏寺を建立し、仏を祀まる権利を得た。そののち、天皇家や諸豪族が、寺を建立していった。ただし、民衆には、信仰は浸透せず、仏教は貴族等の独占物であった。これに対し彼は、多くの人たちに仏教の教えを説いた。

また、当時、税として納める諸国の産物は庶民が直接都へ出向いて納めなければいけなかったが、都へ向かう途中で力尽きて餓死したり、都へついたものの帰りの旅費が無く、都で浮浪者になる者も多かった。そこで彼は、彼らを收容するための布施屋とよばれる救護所を作った。また、薬師寺で学んだ土木技術の知識を活かして、重い税や労役にあえぎ苦しみながらも税を都に運ぶ人々のために各地に橋をかけ道路を修理し、ため池や用水路を掘ったりして、民衆救済に尽くした。

こうして、人々は、彼を「菩薩ぼさつ」とあがめ慕って集まった。

彼は仏教の教えを説きながら近畿を中心に各地をまわり、先々に道場を建て、その数四十九院におよんだ。彼につきしたがう者の数は1000名にのぼり、流民

りゅうみん／るみん（重課税等に抗するため土地を離れ仕事を放棄して税をおさめない人々）となった。

当時の奈良王朝の根本は、定住して農地を耕し納税する“良民りょうみん”の存在を前提につくられた律令制度であったが、支配層による仏教の独占を打破しながら、民衆救済に力を尽くし、流民化した民衆を率いる彼は、律令体制の鋭い批判者となった。彼の運動が広がれば「律令の体制＝律令国家」が崩壊しかねない事態となった。当然、彼は朝廷から激しく迫害された。

しかし、彼は民衆に守られて布教を続けた。730年秋には、平城京の若草山で、毎日数千人から1万人の民衆が、彼を中心に集会するという事態が生じた。

ここにいたって朝廷は、ローマ帝国が迫害していたキリスト教を突然公認したように、翌年、彼の布教を公認した。

やがて、聖武天皇に請われて日本初の大僧正となり大仏建立の責任者として招聘された（745年）彼は、大仏建立を民衆に重い税を課し朝廷の財力で行うのではなく、仏教に導かれた民衆の力を結集して推し進めた。

彼は、大仏開眼を見ることなく、その2年前、82歳で逝去（749年）し、37～40歳のころから山房を構えていた生駒山東稜にある、現生駒市の竹林寺に埋葬され、今もそこに眠る。

<問14> **生駒は日本神話の里**

下記の文は「日本書紀」が**生駒の神話**（生駒を舞台にした日本神話）を述べた部分です。（ 1 ）～（ 5 ）に入る人物は誰でしょう。次の人物名からそれぞれ選んでください。

 	 	 	 	 	
 	 	長髓彦ながすねひこ	三炊屋媛みかしきやひめ	磐余彦尊いわれひこのみこと	
 	 	可美真手命うましまでのみこと	饒速日命にぎはやひのみこと	 	

のちに即位して神武天皇となる（ 1 ）が、航海と製塩の神である塩土の翁しおつちのおじに聞くと「東の方によい土地があり、青い山が取り巻いている。その中へ天の磐舟あめのいわふねに乗って、とび降ふってきた者がある」とのことであった。そこで思った。「その土地は、大業をひろめ天下を治めるによいであろう。きっとこの国の中心地だろう。そのとび降ってきた者は、（ 2 ）というものであろう。そこに行って都をつくるにかぎる」と。

その年冬に、（ 1 ）は九州を出立して東征に向った。瀬戸内海を東に向かい、途中、安芸国あきのくに（現広島県）と吉備国きびのくに（現岡山県）に立ち寄り、春に浪速なみはや（現大阪）に着いた。

夏、（ 1 ）の軍たる皇軍は兵を整え、生駒山を越えて内つ国うちつくに（大和国やまとのくにのここと／現奈良県）に入ろうとした。そのときに（ 3 ）がそれを聞き、「天神てんじん（天津神あまつかみのこと／高天原たかまがはら、つまり天上界に生まれた神のこと）の子がやってくるわけは、きっとわが国を奪おうとするのだらう」といって、富雄川流域から軍を率いて生駒山を越えて孔舎衛坂くさえのさか（別名は草香くさか／生駒山西麓／現東大阪市日下くさか）で戦った。矢が、（ 1 ）の兄である五瀬命いつせのみことのひじとすねに当たった。**皇軍は進むことができなかった**。（ 1 ）は考えた。「日に向って敵を討つのは、天道てんとう（太陽）に逆らっている。一度退去して弱そうに見せ、背中に太陽を負い、日神ひのかみ（太陽神）の威光をかりて、敵に襲いかかるのがよいだろう。このようにすれば**刃に血ぬらずして**、敵はきっと敗れるだろう」。そこで軍中に告げていった。「いったん停止。**ここから進むな**」と。そして**軍兵を引いた**。（ 3 ）の軍も**あえて後を追わなかった**。

その後、皇軍は、紀伊半島を迂回、熊野付近で上陸し、紀伊半島を縦断して大和国に入り、冬、富雄川流域（現生駒市上町付近）で、再び（ 3 ）の軍と相見あいまみえた。しかし、戦いを重ねたが仲々勝つことができなかった。そのとき急に空か暗くなってきた、雹ひょうが降ってきた。そこへ金色の不思議な鵝とびが飛んできて、（ 1 ）の弓の先にとまった。その鵝は光り輝いて、そのさまは雷光のようであった。このため（ 3 ）の軍勢は、皆眩惑されて**力戦できなかった**。

そこで、（ 3 ）は**使いを送って、（ 1 ）に言った**。「昔、天神の御子が、天磐船に乗って天降られた。（ 2 ）という。この人が我が妹の（ 4 ）を娶めとって子ができた。名を（ 5 ）という。それで、手前は、（ 2 ）を君として仕えている。一体天神の子は二人おられるのか。どうしてまた天神の子と名乗って、人の土地を奪おうとするのか。」と。

（ 1 ）がいった。「天神の子は多くいる。」と。

（ 2 ）は、もとより天神が深く心配されるのは天孫てんそん（天神の子孫）のことだけであることを知っており、また、天神と人とは全く異なるのだということを（ 3 ）に教えても分りそうもないことを見てこれを殺害し、**部下達を率いて帰順した**。

【注】文中の太字は、＜解説＞に必要なため、そうしました。

<問1> 国際都市 生駒

<解答> 約60カ国

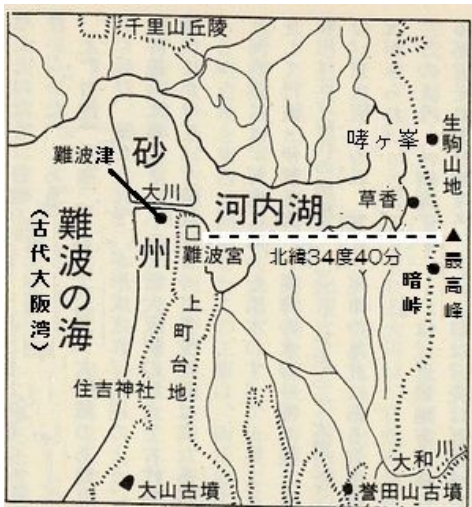
<解説> 市が公表している資料によれば、14(H26)年4月1日現在、生駒市には63カ国(うち無国籍が1)もの外国籍の人々が居住しています。生駒市は、これほど多くの外国籍の人々が居住する国際都市(諸民族が共存する都市)といえます。国籍の内訳は、市役所3階の総務課の市政情報コーナーにおいてある資料で見ることができます。その資料は、吉波の公式HPに掲載の「生駒検定<全国版>(14題)」でも見ることができます。

<問2> 謎多き山 生駒山

<解答> 難波宮

<解説> (1) 難波宮は、飛鳥・奈良時代に難波なにわ(現在の大阪市中央区)にあった古代宮殿です。難波津(古代大阪湾の港)の近くに建てられました。聖武天皇はここを平城京の副都としました。

(2) 大和岩雄『日本の神々3』(白水社)の中で、次のような古代日本における生駒山の「不思議=謎」が指摘されています。



① 生駒山の最高峰から真西に難波宮(652年完成)がある(いずれも北緯34度40分)。

<地図は、古代日本の大阪平野>
(森浩一『日本の神話の考古学』
記載の地図をもとに作成)

② 哮ヶ峰たけるがみね(生駒山の北端)にある磐船いづね神社(太陽神の性格を持つ饒速日命にぎはやひのみことを祀る)は難波宮大極殿跡からみて、ちょうど夏至の日の出の位置にあたる。

③ 日本最古の神宮である石上神宮いそのかみじんぐう(饒速日命の子である可美真手命うましまでのみことなどを祀る/在天理市)からみると、生駒山の山頂に夏至の夕日が落ちる。

<これら3つの不思議(謎)は、饒速日命と太陽信仰のかかわりに関係があるのではといわれています。>

<問3> 芸術の香りあふれるまち 生駒

<解答> いこま国際音楽祭

<解説> この音楽祭は2010年、平城遷都1300年祭の協賛事業としてスタート。第1回から、東大阪市生まれで現在はドイツを拠点に活躍しているピアニストの韓伽耶ハンカヤさんを音楽監督に開催されています。

<写真は、昨年11月に開催された第5回のチラシ>



<問4> 生駒に息づく野生動物

<解答> ニホンリス

<解説>



「生駒市自然環境調査報告(H19・20年度)」には「アカマツの根元にはニホンリスの食べたマツボックリの食痕しよくこん(引用者注:食事の痕跡)が見られ・・・。」と記されています。

<問5> 不思議な「旅する蝶」が立ち寄る生駒

<解答> アサギマダラ

<解説>



これまで、アサギマダラが生駒山から日本最西端の八重山諸島与那国島までの1680kmを17日間で飛んだ記録も残っています。

<問6> 虹色に輝く「幻の菓子」

<解答> レインボーラムネ

<解説> 朝日新聞(2013年9月4日)は、「まだまだ勝手に 関西遺産 懐かしさ膨らむね レインボーラムネ」との表題の記事で次のように紹介しました<写真も同記事より>。~購入は申込制で、毎年3・9月の抽選には2万人近く申し込むが、千人ほどしか購入できない。「死の床にあった父がおいしいと食べてくれた」「紛争地域で活動するNPOに差し入れたい」「NASA(米航空宇宙局)の土産に持って行く」。世界を旅するラムネ菓子だ。~



<問7> 「男はつらいよ」生駒の巻

<解答> 松坂慶子

<解説> 「浪花の恋の寅次郎」は、1981(S56)年8月に公開されました。松坂慶子さんが演じるふみが、寅さんの腕を組んで、宝山寺の石段を登っていくシーンなどが描かれています。

宝山寺は、様々な光景を持っています。毎年、秋分の日にはお彼岸万燈会まんとうえが行なわれ、600基の灯籠と1万個のローソクが点灯して参道・境内を照らし、幽玄世界を現出します<写真はそのイメージ>。



<問8> チャレンジする都市 生駒

<解答> 環境モデル都市

<解説> 環境モデル都市とは、低炭素社会の実現に向け高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジしている都市を、今後我が国が目指すべき低炭素社会の姿を具体的にわかりやすく示すためにモデル都市として政府が選定している都市をいいます。

生駒市は、環境モデル都市に選定されたのを機に、「環境モデル都市推進課」を新設して環境モデル都市事業を推進しています。<写真は、環境モデル都市生駒の象徴となっている「市民共同発電所1号機」(市民の全額出資により



エコパーク21の屋根に昨年3月に設置された/設置運営は、一般社団法人市民エネルギー生駒)>

<問9> 生駒にひっそり暮らす「氷河時代の生き証人」

<解答> キキョウ

<解説>日本列島が大陸と陸で続いていた氷河時代、キキョウは、大陸とそこにつながった日本に分布していました。その頃の日本には、今よりも乾燥した涼しい草原が広がっていました。やがて、氷河時代が終わると日本列島は大陸から離れましたが、キキョウが好む**草原が日本の山地に残った**のでキキョウは日本で生き続けてきました。だが近年、野生のキキョウが減っています。キキョウが好む草原がなくなってきているからです。このままでは、せつかくの「生き証人」がいなくなってしまうます。キキョウが生き続けられる環境を何としても残したいものです。



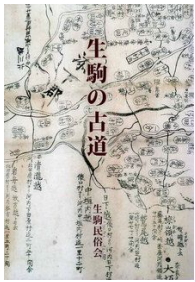
Wikipediaより

<問10> 歴史が息吹く生駒の古道

<解答> 一休さん（一休宗純）

<解説>一休さんの通り路を右の地図で示しました。

昔の人は行き先をもって街道名としました。奈良へ（奈良街道）、伊勢神宮へ（伊勢街道）、吉野・大峰へ（大峰街道）、高野山へ（高野街道）。そして、それらの街道は熊野参詣道さんいみちにつながっていたので熊野街道ともいいました。一休さんの通り路を別名とする傍示の里と中村の里を通る街道も「**お伊勢参りの道**」とか「**伊勢街道**」



と呼ばれたのです。なお、南山城の道（一休寺のある南山城の国の玄関である東畑の里と富雄川を結ぶ街道）や高山の伊勢街道を含む生駒の古道を踏破調査してまとめた『生駒の古道』（生駒民俗会編著／昨年3月発行）<左に表紙写真>は生駒ふるさとミュージアムなどで購入できます。



<問11> 生駒の自然が生んだ世界に誇れる伝統工芸

<解答> (1) 宗祇 (2) 宗叡 (3) 村田珠光 (4) 後土御門

<解説>奈良県の最北端富雄川発する所たる高山は「茶釜の里」。茶釜の全国シェアは9割を超えています。宗叡が**鷹の風切羽のしなやかさを竹に写して**茶釜を考案して高山では茶釜づくりが行なわれるようになり、1577(天正5)年に筒井氏に攻められて高山城主が没落したのちも、家臣たちの多くが帰農して茶釜師に転じ、以後、**一子相伝**(代々宗家長男のみが継承)の技として茶釜の技法を伝えました。こうして高山が現在全国唯一の茶釜の里として残っているのです。時代を経て茶道の隆盛とともにその流派の違いによる茶釜が生み出され、現在は流派の違いに従い60種以上の茶釜が作られています。<写真は、高山上空を飛翔するオオタカ>(生駒在住の写真家 与名正三さん提供 ~今冬、高山の市民農園付近で撮影~)



<問12> 歴史を見つめてきた暗峠

<解答> ① 松尾芭蕉 ② 鑑真 ③ 豊臣秀長 ④ 伊勢神宮

<解説>古代から難波と大和を結ぶ道は、奈良盆地の西に立ち上る生駒・葛城の山々を越えなければならぬため、竜田越など「〇〇越」と呼ばれてきた。暗越奈良街道は、直に山道を登って生駒山を越え険しいが最短で難波に通じる道として整備され、「直越ただごえ」とも呼ばれた。奈良時代には**遣唐使**一行や西国へ赴任する官人がこの直越を通り難波津から出立した。「直越えのこの道にして押し照るや難波の海と名付けけらしも」(万葉集巻6-977)は、遣唐使に随行した官人の歌で、直越から振り返る難波の海を見たときの思いを詠んだものだ。また江戸時代の国学者・**本居宣長の「古事記伝」**にも、暗峠を「この道は近いから直越という」と記されている。暗峠は江戸時代には大阪から奈良・伊勢方面への往来でにぎわい、数軒の宿屋と茶屋があった。明治に入って鉄道が開通して以後、急速にさびれたが、峠の路面には江戸時代に郡山藩が敷設した石畳が残り、「日本の道100選」(旧建設省選定)に選ばれている。「暗がり」の名の由来は、樹木が茂り昼間も暗かったことなど諸説ある。暗越奈良街道は、今も重要な道なので国道とされているが、急坂の上に峠付近では道幅2メートル以下



下のところもあり「酷道こくどう」と呼ばれている。なお、峠付近の西畑町には、街道沿いに石垣積みの棚田が耕作されており、「**西畑の棚田**」として知られる。こ

の西畑の里山の景観も美しい。<以上、産経新聞「なら再発見 暗越奈良街道」(2013年6月15日)から加筆して引用しました／写真(暗峠)も同記事より>

<問13> 生駒を愛し今も生駒に眠る偉人

<解答> 行基

<解説>**毘盧遮那仏**びるしゃなぶつ(「宇宙の真理=縁起の法」を万人に照らし、「悟り=苦悩の超克」)に導く仏)である大仏の建立は莫大な資材と労働力が必要であり、朝廷の力のみでは不可能で、行基が仏教に導びいた民衆の力を結集してはじめて成し遂げられました。大仏が照らす縁起の法(**すべてのものは互いに支え合っている**という真理)を全ての人が覚さるとき、互いに憎み殺し合うという苦しみから人類は解放されま



Wikipediaより

す。それを願って行基は大仏建立に心血を注いだのです。行基は日本史上、最も偉大な思想家・実践家です。かかる偉人が愛し拠り所とした生駒の地に誇りを感じます。

<問14> 生駒は日本神話の里

<解答> (1) 磐余彦尊 (2) 饒速日命 (3) 長髓彦 (4) 三炊屋媛 (5) 可美真手命

<解説>

(1) 問題文の太字部分に注目すると、生駒の神話は、**異なる政治勢力間の武力衝突を回避**しようとする物語だといえます。

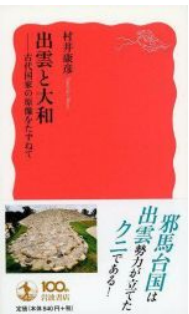
(2) 生駒の神話には、次の4つを主とする**いくつかの謎**があります。

- ① 磐余彦尊(即位して神武天皇となる)の軍隊(以下、神武軍)を追い払った長髓彦は、明治になって、皇軍を敗北せしめた逆賊であるとされて以来、学問(実証)的に研究されず、**長髓彦とは何者かが謎のまま今日に至った。**
- ② 長髓彦軍と神武軍との最後の決戦のとき飛来した**「金色の鴉」は、長髓彦軍の守護神であった※にもかかわらず長髓彦の軍兵たちを戦わせない、または、敗北させるようにしたのはなぜか**(これが**日本神話最大の謎**)。

※『生駒市誌』には「金色の鴉は、本来は長髓彦の側のトーテム(神)ではなかったか。」と記されています。

- ③ 「金色の鴉」の働きによって神武軍が勝利したかに見えるが、そうではなく、その後、長髓彦軍と神武軍の間で**和平交渉が行われたのはなぜか。**
- ④ 決定的な勝敗がつかないまま、君たる饒速日命が臣たる長髓彦を殺害して磐余彦尊に帰順した(「**国譲り**」した)のはなぜか。

(3) (2)の①の謎について:村井康彦『出雲と大和』(岩波書店/一昨年1月刊)<右に表紙写真>に、「長髓彦は生駒地域の首長ただけでなく、饒速日命の率いる**邪馬台国連合の総大将**であった」と、長髓彦が何者であったかが初めて実証的に記述されました。



(4) (2)の②・③・④の謎の解明

A. この3つを順序立てると謎が解けます。すなわち、「守護神(金色の鴉)は長髓彦が他者の命を奪う者へと墮落しないよう守護し、平和的解決を促した⇒和平交渉⇒平和的解決(国譲り)」となります。

「**国譲り**」とは、国土という限りあるものは相手に平和的に譲り渡し、精神的に相手を統べることです。出雲神話では、大国主命おおくにぬしのみことは出雲の国土は譲り渡しましたが、出雲大社に祀られて精神的な気高い影響力を持続し尊敬されています。同様に、饒速日命も帰順はしましたが、その後、磐船神社など多くの神社で祀られて気高い精神的な影響力(=永遠なるもの)を維持し尊敬されています。「国譲り」神話は、争いを武力によってではなく平和的に解決することこそ尊い行為であることを説く世界に類を見ない日本が生んだ神話です(憲法第9条を彷彿とさせます)。**なお、長髓彦は日本書記では殺害されたことになっていますが、実際は平和的解決を実現するために身を引いたと考えられます。**古事記は長髓彦の最後を曖昧にし、東日流外三郡誌つがるそとさんぐんしという古史古伝では、長髓彦は磐余彦尊との戦いのあと日高見ひたかみ(東北地方)の地を新たな故国として移住した、と記されているからです。平安時代初期、蝦夷えみしの指導者として現東北地方の平和維持に奮闘した阿弭流為アテルイは長髓彦の子孫ともいわれています。

B. Aは、「**大切な人が他者の命を奪う者へと墮落しないよう戦わせないようにするのが真の愛**」「**武力によらず平和的に解決することが尊い道**」が生駒の神話のメッセージであることを示しています。**異なる政治勢力間の抗争を乗り越える道**を示すメッセージを世界に発信している神話を生んだ生駒の地に誇りを感じます。

< 宮崎駿監督の**「もののけ姫」のアシタカ[ヒコ]**はナガスネヒコに、同監督の**「千と千尋の神隠し」のハク(ニギハヤミコハクヌシ)**はニギハヤヒノミコトに由来しているといわれています。このように、生駒の神話の主人公であるナガスネヒコとニギハヤヒノミコトに対する尊慕の念は現在にも受け継がれています。>